

小谷自治会 6月定例会 議事録

日 時 令和8年6月5日（金） 19:00～20:40

場 所 小谷地域集会所 2階 和室

出席者 別紙のとおり（略）

紙資料 小谷自治会 6月定例会議題

同 5月議事録

資料 議題1の防災まち歩き避難訓練に関わる紙資料

回覧 7月11日（日） 交通安全講話

7月 5日（日） 菅谷神社 神幸祭

議題1. 小谷自治会避難訓練実施について

会長が、上記資料やスクリーンの投影した画像等に基づき
説明、解説（約20分）

参加者 現時点5名

議題2 菅谷神社神幸祭について

会長が、説明し、接待に関わるお手伝いの募集についてお願いした。
（約10分）

議題3、4、5について、説明した。

（約10分）

議題5について

1. 役員（会計から）

- ・会費徴収の件 数班をのぞき、納入すみ
- ・そのお礼と 会員数 当初見込みの960世帯から950世帯と予想
- ・香典の申請が、昨年度2～3月分を含め、8件あった。

2. 地域担当職員から

- ・役場の開庁時間の変更、今年度自治会長と自治会だよりが6月号に掲載

3. 地区長からの意見、提言の主なものを抽出列記

- ・退会が当地区で10件あった。理由聞いたらメリットがない。
- ・回覧は、会員でなくともQR登録すれば、WEBで情報はみれる。
- ・同じく5件退会あり 共働き、参加できないからとの理由
- ・非会員との差別化ができない。
- ・自治会は入るものだと思って、何年も過ごしてきたが、いまは、そういう考え方が崩れている。
- ・災害が発生したとき、自治会をとおして支援物資がはいつてきても、会員でないので差し上げられないと言えない。
- ・若いひとがやらないで、年寄りがやっている どうなんだろう。
- ・本来的には、入っているメリットとかデメリットとかの話ではないが現実はその方向になっている。

- ・若い人がはいつてきてくれないと持続可能に動いていかなくなってしまう。
 - ・はいつてよかったというものを具体的に示していかないといけない。
 - ・小谷自治会としては、幅広い年代のかたからこないところがあるというのを（皆さまから）だしていただきたい。（会長）
 - 一つの転換点にきている。辞める方を引き留める力強いものがないのが実情
 - ・災害など、茅ヶ崎でも藤沢でもなんでも入ってくる。あえて自治会をとおしてなんてみない。
 - そういった中でただただ、入ってくださいでは説得できない。
 - ・義務で入ることは入る。入らないかたは最初から入らない。
 - ・かつては、びん、かんをだすゴミ出しの分別の効果があつた。
 - ・勝手にゴミを捨てていくひとの対策を講じないで、ネットの負担金をだすのはおかしいと言ったことがある。
 - ・会員になってるひとがここに住んでいて印象に残る何かをやっていくしかないだろう
 - ・若い地区長 ここに出席 その間、妻がワンオペで子どもを見ている、ほかにやるひとがいないのでひきうけた。
 - メリットとかでなく、誰かがやらなくてはならないと思っている。
 - 誰かがやっているから、こうして、おまつりとかできている。
 - 誰かしらがやらなくてははいけない。
 - それを強制勢力で、ごみはだめとか、お祭り参加してはだめとか制限はできない。今の人たちは、最初からメリット、デメリットで考えている。考え方がちがう。自分たちだけが負担を負う。
 - そこを伝えたほうがいい。案内というか 伝え方の方法はあると思うが入る、入らないではなく、やらないと祭がおこなわれなない。町自体がどんどん変ってしまう。だから入ってほしい。そこに入るメリットがある。
 - ・何のために自治会があるのか 必要性は？
 - ・地域のコミュニティ、ひととのつながり欲しい。異物が入って来たのではなく、それを受け入れてよりより地域づくり、地域にしていきたいと思いますというのが自治会の在り方
 - ・回覧板をなくして班長さんの負担は減つたが、つながりは途絶えた。
 - コミュニティから疎外されたという声もあった。
 - ・負担軽減か、コミュニティの維持か どっちをとるか
 - ・イベント募集の人数制限 土日仕事で日程が決まっても参加できない。
 - ・そのよう中、集会所の開放、使用状況の提示、コマ回し 世代間交流、吹矢サークルなどボーリング大会など1回きりでなく、定期的なものを実施
 - ・こどもカフェ、子ども会の案内、紹介などなどがあり、この時間で8時40分近くになり、
- 意見を集約するかたちでアンケートをとらせてください（会長）とし、山口副会長が閉会を宣言して、令和8年度6月の定例会を終了した。

以上